



金澤 雅哉 議員

若者の市政参加について

問 若者から「市政が見えない」「情報が届かない」との声があるが、市は現状をどう把握し対応しているのか。

答 昨年度実施した市民アンケートでは、若い世代ほど広報誌を読んでいる割合は低かった。市の情報は広報誌のほか、SNSも活用し、様々な媒体から取得できるように取り組んでいる。

問 行政の施策や予算などは、専門用語が多く理解しづらい。説明の方法を工夫することが重要であると考えますが、誰にでも分かりやすい情報発信の工夫は行っているのか。

答 予算を家計に例えるなど分かりやすく伝わるように工夫している。また、1月からは広報誌をリニューアルし、若い世代にも興味を持ってもらえる紙面づくりに取り組んでいる。

問 若者に伝わりやすいSNSや動画を活用した情報発信を積極的に行ってはどうか。

答 市長とあさぴーによるダンス動画は好評であり、市に関心を持ってもらえるきっかけとなった。今後も市政への入り口としてSNSや動画の発信に努める。



12万回以上再生された市長とのインスタ動画第1弾

問 若者が市政に参加できる方法について、若い世代に特化した仕組みはあるか。

答 市長への手紙制度、地域意見交換会などを実施している。総合戦略の策定に当たっては若者を含めたアンケートを実施するなど、若い世代からの意見の把握にも努めている。

問 若者の声が実際に政策に反映された事例はあるか。

答 代表的なものとして、子育て世代の意見から実現したおひさまテラスや給食費無償化など子育て支援に関する事業がある。

障がい者福祉の充実―ストーマ装具の負担軽減へ

問 物価高騰によりストーマ装具などの価格が上昇し、負担が増加している。基準額の早期見直しはできないか。

答 昨今の急激な物価高騰の影響は、ストーマ装具についても例外ではなく、障がいのある方の生活の負担は増加しているものと認識している。ストーマ装具の基準額見直しについては、近隣の状況を参考にしながら、より適正な水準に設定していくよう検討していく。

愛犬連れでも安心できる道の駅へ

問 道の駅季楽里あさひで、愛犬連れの来訪者が安心して短時間の買物や食事を楽しめるよう、またペット同伴エリアの環境向上のためにも、リードフックの設置はできないか。



伊藤 春美 議員

答 利用実態やニーズを把握するとともに、他の道の駅の事例なども参考にしつつ、安全性、管理体制、設置場所等について、指定管理者と協議していきたい。

自転車ルール改正の周知を強化

問 令和8年4月から自転車の交通違反に反則金制度が導入される。高齢者への周知と取り組み状況について伺う。

答 広報やLINE、チラシ配布などで周知を行う。また、取り組みとしては、まちづくり出前講座に「交通安全」があるので、相談があれば対応する。



問 ヘルメットの購入に上限2000円の助成があったが、助成制度は継続するのか。

答 ヘルメットの購入補助は、県の補助金を利用しており、県が令和8年度も実施予定とのことなので、市も引き続き行う予定である。